

輸入粗飼料の情勢

全酪連
購買生産指導部
購買推進課

北米コンテナ船情勢

昨年の12月はロサンゼルス港及びロングビーチ港で80隻超のコンテナ本船が沖合に滞船したことで、日本向けの定期便が減便され、1か月以上のスケジュールの遅延が恒常化し輸入牧草の流通は大きく乱れましたが、今年は沖合での滞船が解消され、定期便も通常通り運航されています。解消の主な理由は、5月から始まった北米西海岸港湾労使交渉によるストライキ及び港湾の混雑を懸念し、米國小売業者を中心に西海岸から東海岸にコンテナ貨物取扱を移行したことや、米国内のインフレから消費が落ち込みコンテナ貨物取扱量が減少したことが考えられています。労使交渉は現在も交渉中ですが、大きな進展は報じられておらず、大規模な争議行動は行われていません。

また20年1月から始まった米鉄道労使交渉は、12月9日にストライキやロックアウトにより鉄道機能が停止する可能性がありましたが、12月2日に米国バイデン大統領が鉄道労使間の暫定協定案に署名したため、争議行動によって鉄道機能が停止する事態は回避したものの、未だに締結には至っていません。今後も港湾及び鉄道労使交渉の動向に注視が必要です。

ビートパルプ

【米国】

産地ではインフレによる人件費の高騰で製糖作業向けの人員確保が難しく、また製品や原料を運搬するトラックの不足からビートパルプの生産が例年より若干遅れています。22年産は生育時期の早魃の影響もあり単収が減少しているため、現在、原料となるビートをできるだけ確保するため、圃場が凍結する前に収穫すべく、急ピッチで作業が進められています。

アルファルファ

ワシントン州

主産地であるコロンビアベースンでは22年産の収穫が完了しました。22年産収穫を振り返ると、1番刈は春先の冷涼な気候と、収穫直前の6月上旬まで雨天や強風が頻発したことにより、例年に比べ収穫開始が3週間程度遅れました。さらには収穫中も断続的な降雨に見舞われたため、刈遅れや雨当たり品の発生が中心となり、上・中級品の発生は限定的となりました。しかしながら、米国内の酪農家は21年産の繰り越し在庫がなかったため、雨当たり品でも旺盛な買付けを行い産地相場の上昇を誘発しました。2番刈については生育期間中の気温が上がり成分値は低めとなり、夜露の発生が少な

ったため、やや乾燥気味な品質となりました。収穫期は晴れた日が続く雨当たり品の発生は少なく、中級品以上の発生が中心となりました。3番刈・4番刈は収穫期の散発的な降雨の影響で半分近くが降雨被害にあいました。また、同州や近隣州で発生した山火の煙も影響し、通常よりも乾燥に時間を要し、乾燥気味のものが多く、下級品中心の発生となりました。22年産は1番刈の収穫作業の遅れを、シーズン終盤まで解消できなかったため、例年行われる4番刈の収穫を断念する圃場も多く見られ、生産量は昨年と比べてやや減少しました。産地相場については、発生量の少なかった上級品を内需及び中国向けに旺盛に買付されたこともあり、過去にないような高値の相場形成となりました。

オレゴン州

オレゴン州南部クラマスフォールズでは22年産の生産を終えています。産地ではワシントン州同様に生育期の気候が冷涼で生育が遅かったことに加え、収穫開始直前に降雨があったため、例年より2週間程度遅れ、1番刈の収穫が開始されました。その後は天候も安定したことから2週間ほどで1番刈の収穫作業は終了しました。一部収穫作業中に降雨被害にあった圃場もありましたが、多くの圃場で降雨被害を避けられたため、上級品中心の発生となりました。2番刈・3番刈については収穫作業期間中の天候が不安定であったことから、収穫されたものの一部で雨当たりの被害が発生しました。

同州中部クリスマスバレーでも22年産の生産を終えています。クラマスフォールズと同様に1番刈では上級品中心の発生となりましたが、2番・3番刈は収穫期間中に降雨に見舞われたこともあり、雨当たり品の被害が発生しました。産地相場は現在も米国内酪農家からの上級品アルファルファの需要は衰えておらず堅調に推移しています。

カリフォルニア州

カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、夏の暑さが本格化する前に収穫された1番刈から3番刈は好天に恵まれこともあり、成分も高く上級品中心の発生となりました。夏季に入ってから気温上昇に伴い成分値は下がり始め、低成分且つ過乾燥なサマーヘイの発生が中心となりました。秋に近づくにつれ気温が下がる9～10月は例年、成分が回復しますが、22年産は季節風の影響により湿度も高く、残暑が影響し低成分の下級品の発生が多くなりました。

産地相場については年間を通じ上級品に対する引き合いが近隣の酪農家はじめ、中東、中国より続いているため、高値で推移しています。

ユタ州

同州でも春先の気候が冷涼だったため生育が遅れ、例年より10～14日程度遅れて1番刈の収穫作業が開始されました。品質については生育期の冷涼な気候の影響を受け例年よりも茎が細い反面、葉量が多く葉付きも例年以上に良い、上級品中心の発生となりました。一方で2番・3番刈については断続的な降雨の影響で多くの雨当たり被害が発生しました。

米国産チモシー

主産地である、ワシントン州コロンビアベースン及び、エレンズバーグでは22年産の生産を終了しました。22年産はアルファルファ1番刈の生産と一転し収穫期に好天に恵まれたため、1番刈は上級品中心の発生となり、中・低級品の発生は限定的となりました。1番刈の収穫が終わると多くの生産者はトウモロコシや豆類といった換金性に優れる穀物へ転作したことや、夏季の暑さの影響で低単収となり、2番刈の収量は例年の半分程度になりました。2番刈の品質は中級品の発生が主体で上級品の発生は限定的となりました。産地相場が高騰したことにより日本・韓国向けの需要が顕著に減少しており、工場の稼働率の維持に苦慮する一部の輸出業者は、上級品を中心に値下げのアナウンスを開始しています。

スーダングラス

主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは22年産の生産が完了しました。22年の1番刈は春先の気温が例年より低く、収穫期においては湿度も低く好天に恵まれたため、色目は鮮やかな緑色で葉付き良い柔らかな上級品から中級品が多く生産されました。産地相場については、人件費、肥料代、輸送代など生産コストの大幅な上昇に加えて、灌漑の取水制限による生産減少が危惧され、一時市場は混乱し相場の上昇を誘発しました。夏場以降、収穫された中・低級品については収穫中、複数回降雨被害がありました。また旱魃の影響により自給飼料不足に直面した近隣地域の肥育生産者及び、輸出業者の間で旺盛に買付が行なわれました。現在、産地では日本向けの需要が低下し、上級品を中心に未成約の在庫を保有する輸出業者が散見されています。

クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは22年産生産を終えています。22年産のクレイングラスの需要は高騰するアルファルファのタンパク源代替として、今まであまり見られなかった米国内酪農家からの引き合いが強く、内需が産地相場を牽引し、昨年比で大幅な値上がりとなりました。

22年産は、生育期となる春先が例年より冷涼であったことから、序盤に収穫されたものは葉付きが良く柔らかい品質のものが見られましたが、シーズンが進むにつれ、多少茎が固くとも、買付を続ける米国内需向けの生産が増え、生産者も単収増を目指したため、例年以上に全体的に茎が堅めな品質が多く生産されました。シーズン終盤に入ると9月～10月にかけて降雨被害を受けるなど不安定な天候が続き、降雨を避けるため適期を逃した圃場や、高温多湿の影響で茶葉が多く混入した品質の低級品が発生しました。

バミューダ

22年産は米国国内で住宅用芝の需要が好調であったことから、種子価格も高値で推移し、種子の生産が例年より増加しました。これに伴い、バミューダヘイの生産量が減少しました。バミューダヘイの生産量が少ないなか、色目なきれいな上級品を中心に産

地相場は米国内の馬糧やペット向けの買付が旺盛なため、高値で推移しています。

カナダ産チモシー

主産地であるアルバータ州中部クレモナ地区、南部レスブリッジ地区ともに22年産の生産を終えています。1番刈の品質は中級品から上級品、2番刈の品質は低級品から中級品が中心の発生となっています。産地では降雪が続いており、積雪や雪道の影響で出荷の遅れが増加しており、今後もスケジュールには注視が必要です。

豪州産オーツハイ

東豪州

東豪州では22年産オーツハイの収穫期に「ラニーニャ現象」及び「負のインド洋ダイポールモード」が直面し記録的な大雨に見舞われました。南東部に位置するビクトリア州では11月においても月間平均降雨量の約2倍の降雨が記録される等、異常な多雨となり、同地域にあるラクラン川が氾濫し、周辺の都市部や農地の広い範囲で洪水が発生しました。この洪水により大規模な停電や道路の寸断が発生し、オーツハイにおいても出荷スケジュールの遅延が発生しました。

22年産は10月に多くの圃場で収穫の適期を迎えましたが、断続的な降雨の影響で作業が開始できず、雨あたりや刈遅れが主となりました。その後11月まで天候の回復はなく、収穫を断念する圃場も散見されています。22年産東豪州産の品質は低級品中心の発生となり、生産量も例年に比べて大きく減少する可能性が出てきています。産地周辺の酪農家においても、自給飼料が水浸しとなったため、放牧草をはじめとする自給飼料不足の懸念があるため、低級品でも需要は旺盛で産地相場は堅調に推移しています。



左：冠水した圃場 真ん中と右：断続的な降雨から集草を断念した圃場（11月東豪州にて撮影）

南豪州

22年産の収穫作業は終盤を迎えています。南豪州でも収穫期に悪天候が続き、1

1月中旬には強い雷雨による大規模な停電が都市部で発生しました。22年産は産地においても断続的な降雨があり、予乾中であったオーツヘイの多くが雨当たりの被害を受け、また気温も低かったことから、見た目の劣化や成分値の悪化に繋がりました。中旬以降は天候が回復したため、収穫された圃場も一部ありましたが、適期を逃した刈遅れとなり、成分値は低めとなる見込みです。このような状況により、南豪州でも生産量の減少が予想され、特に上級品の発生は限定的となる見込みです。



左：複数回の降雨被害にあった低級品、右：降雨被害にあった圃場（11月南豪州にて撮影）

西豪州

西豪州の22年産は順調で、収穫作業は終盤を迎えています。生育期、収穫期ともに天候に恵まれ、収量も平年以上となり上級品から中級品中心の発生ととなる見込みです。東豪州と南豪州の22年産の作況から、今後のオーツヘイの出荷は西豪州に集中すると予想されています。西豪州に集中することで、製造スケジュールは慢性的に逼迫した状況が続き、スケジュールの遅れや在庫の不足等の懸念もあり、注視していく必要があります。また西豪州の主要港フリーマントル港では引き続き、船腹は逼迫しており、今後、年末年始の船積混雑も合わせて出荷状況の悪化が懸念されます。

以上